

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として①私達は、お年寄り一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく「生きる」事を支え、心穏やかに過ごして頂けるように努めます。②人と人のつながりと「和」を大切に協力しあい、助け合い、地域を心でつなぐ施設を目指します。の2点を掲げ毎日朝の申し送り前に唱和している。	○	左記と同様にて今後も基本理念を基に地域と積極的に交流を持ちながら地域に根差した施設を作っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の記載のように毎朝基本理念を唱和し職員一人一人が自覚を持って前向きに取り組む努力をしている。何か行事があるたびに地域へ声かけを行い、お手伝いをお願いしている。	○	敬老会やもちつき大会など参加していただき、お手伝いしていただきながら楽しい時間を共有できた。今後も積極的に行事のたびに声をかけさせていただきながら地域の方と交流をしていきたいと思っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開設時には当施設の理念を明示させていただき、説明会を開催。運営推進会議でも常に地域との交流を目指しているが、地域住民全体にと言われるとまだまだ取り組むことは多いと思っている。	○	地域での花見大会、地蔵盆、御祭りなどの参加を今後も続けていけるように、取組み、地域での認知症の学習会などを今後計画していければと思っている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議では常にいつでもお越しいただける事を訴えながら、行事のたびに声をかけさせて頂いている。	○	老人会長さんは家が隣の事もあり、声をよくかけさせて頂いているが、地域住民の方がいつでも気軽に来ていただけるようにするのはどうしたらよいかを模索中である。9月の敬老会にも老人会長さんに参加して頂く事が出来た。12/13の餅つき大会にも声をかけさせて頂き、お手伝いをお願いし楽しい時間を持つ事が出来ている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会費も納めさせて頂き、回覧版も回して頂いている。行事のたびにお誘いを受け、可能な限り参加させて頂いている。	○	地蔵盆後の地域の子供たちと花火大会も施設の庭を利用して頂きながら交流をしている。今後も積極的に色々な方と交流を深めていければと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議においては、常に地域の方の要望を聞くようにし、認知症に関しての相談は常に受けていける様にお知らせしている。広報誌を回覧版で回して頂いている。	○	認知症の相談件数が今の所なく、まだまだ啓蒙が不足しているのではないかとと思われる。今後は民生委員さんなどと関わりながら、何か手助け出来る事を考慮中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まだ開設後はじめての外部評価であり、まだまだ改善すべき課題は山積みである。その中で外部評価を受けながら改善点を明確にしていければと考えている。	○	外部評価を受ける事により、改善点を明確にさせていただき、現在の課題や改善するべき事に対して前向きに取り組む姿勢である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回施設の現状報告を行い、運営推進委員からの意見を聞かせて頂いている。その意見等に対して職員は会議録に目を通す事と、内容によっては申し送り簿に記入し報告を徹底している。又内容によっては職員会議にかけて検討している。	○	今後も会議で出た内容を職員に確実に報告をしながら、少しでもサービスが向上出来るように努力していこうと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会があるたびに、連絡はとるようにしているが、密にと言われると今後の課題につながると思う。常に行政からの意見に耳を傾けながら前向きに連携をとっていければと思っている。	○	サービスの質の向上に向けて、色々な分野の方の意見を聞きながらひとつひとつ丁寧に前向きに取り組んでいこうと思っている。市町村担当との連絡などの方法として何も用事がなくても定期的に話す機会を持たなければならないと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在後見制度を申請中が1名。財産管理を利用の方が2名おられるが、職員全員が知識を持っていない。対象が認知症であり家族関係も悪い方がおられる為、今後お年寄りにとって状況が悪くなると考えられる時には活用できるような努力をしていかなければと考えている。	○	今後勉強会において権利擁護や後見人制度について学ぶ機会を設定予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事であり、現在の所、事実の確認はしていない。今後も細心の注意を払い防止に努めていこうと思っている。	○	認知症介護においてのストレスをしっかりと把握しながら、虐待に結びつかない様に、注意していくとともに、もし少しでも近い状況になった時は、速やかに対応していかなければならないと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の事前調査や面談の際は十分に時間をかけて、話を聞くようにしている。まだ解約には至った事がないが、面会時などには常に声をかけさせて頂いている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族が施設に遠慮したり、言いたい事も云えない状況には決してしないように、意見が言いやすい場を提供、年1回の家族会の総会では活発な意見を言えるように努力していきたいと考えている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御利用者によっては、気分の波によって不満がとめどもなく持続する時が見られるが、必ず原因がある事を考えながら前向きに対応している。介護相談員さんの来所の際には必ず意見を言って頂いている。玄関の下駄箱の上に苦情箱の設置。</p>	<p>○</p> <p>開設後入居者会議を1回しかしていないので、今後は定期的に行い、お年寄りたちの要望や不満があれば聞く機会を設けていく。そして運営推進会議にも積極的に参加していただこうと思っている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月連絡票を作成し、その月の出来事やご利用者の状態、金銭出納帳をコピーし報告させて頂いている。</p>	<p>○</p> <p>今後も毎月の連絡票は継続していくつもりである。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情やご意見は常時受け付けており、下駄箱の上に苦情・ご意見箱の設置している。</p>	<p>○</p> <p>苦情が発生した場合は速やかに対応していき、その内容によって市に報告。運営推進会議においても報告する予定である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議に職員の意見を聞く機会を設けている。そして必要に応じて職員の話を開けるように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員の意見には耳を傾けながら、可能な限り善処していく努力はしていくつもりである。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常時3人の勤務人数の確保と緊急時の連絡体制は確保出来ている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居の方の状況に応じてシフト改善はしていくつもりである。いつどんな時に人手が必要なのかを常に観察、把握していく必要あり。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の適正は常に観察しながら、判断していき、なるべくなら異動は控えていきたいと考えている。</p>	<p>○</p> <p>出来る限り、離職者が出ない様な、職場環境作りに留意しながら、楽しい職場作りに努力していこうと思っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に受講して頂けるように常に指導している。認知症実践者研修、リーダー研修は毎年計画実施。法人内研修がまだ不足しているので今後は定期的にも実施できるように努力したい。	○ 今後も引き続き、法人内外の研修の参加を積極的に促し、職員のモチベーションをあげる努力をしようと思っている。グループホーム連絡会の職員交換研修にも参加予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都北部グループホーム連絡会に所属し他の施設との交流や、職員交換研修の実施。連絡を密にとりながら意見交換している。	○ 今後も積極的にグループホーム連絡会の活動を通して、他施設との交流を図っていききたいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	認知症介護におけるストレスは図りしれないものがある事を常に頭に置きながらも職員の為にストレス軽減をはかる方策は不十分であると思われるが、職員間の人間関係を円滑にし楽しく仕事が出来る努力はしていると思う。	○ 食事会などをしながら、職員間のコミュニケーションを図っていく。業務上での要望があれば可能な限り改善していく努力をしていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの日々の報告は密に受けながら、勤務状況は把握している。普段から声かけを行いながらその人の良い所を言うようにしている。	○ 今後も一人ひとりの職員の頑張っているところを見ていけたらと考えている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自分の思いを上手に表現しきれないお年寄り達に対して、時間をかけながらゆっくりと関わる事を基本としながら、その思いに気付いて行く努力をしている。	○ 今後も左記のような基本的な態度は崩すことなく、ゆっくりと関わっていききたいと思っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分な時間を常にとるという点では難しいが、常に誠実に接することを心がけ、訴えに対しては良く聞く姿勢を持っている。面会時や状態に変動があるときはすぐに報告させて頂いている。	○ 毎日の誠実な対応とお年寄りたちが落ち着いた穏やかな日々を送っていただいている事で信頼関係が築いていけると思っている。今後も努力し続けていききたいと思っている。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居までにおいては、現在のサービスが不適切と思われたならば、担当のケアマネージャーに連絡しているかと思っている。	○	今後、入居されたお年寄りが今のサービスより適切と考えられる場合は検討していく姿勢である。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ディサービス利用者の方がグループホームの入居が決まった時、顔見知りになるように入居までに何回も声をかけさせていただいたり、好きな時に来ていただいたりしながら、入居しやすい状態に持って行った。	○	今後も入居が決まった方に対して、在宅で生活されている人に関しては入居までに何回か遊びに来ていただき、少しでも慣れていただくと良いと考えている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本的には、この態度を崩さない事が大切であり、お年寄りたちと一緒に生活していきたいと思っている。	○	現在、関わりを持つという事に対して、色々な課題を抱えている為関わる事の必要性を今後も言い続けながら職員の気づきを期待しながらより良いケアの方向性を見出していきたいと思っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しては面会時などには必ず声かけをさせていただきながらどんな小さな事でも話を聞く様に心がけている。	○	家族との交流の機会を少しでも多く提供しながら、可能な限り行事などに参加して頂けるように働きかけていく様に今後も継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前まで関係が悪かったご家族がおられるが、入居後は離れて暮らされる事で、お互いが冷静になられ良い関係になってこられたご家族がおられる。日々の生活の中で家族に対する思いなどを聞く様になら、良い関係が保てるように努力している。何よりご本人が落ち着いて穏やかに過ごされる事で、家族に対しても感謝の気持ちが芽生えてくると思われる。	○	今後もご家族との関係を大切にしながら、可能な範囲で家族と過ごす時間を大切にしていけるように努力していきたいと思っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会していただけるように、時間制限はしていない。馴染みの人や場所に対して知る努力をしている。	○	これまでの馴染みの関係を大切にしていけると共に、まだまだ知らない事が多いため信頼関係を持てるように努力しその方の生活歴をもっと知る必要があると思われる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	現実的に9人の御利用者の中でも性格的に合う、合わないが起きているが、その中でも連帯感や日を重ねるごとに生まれてきていると感じている。好き嫌いもひとつの個性として受け止めながら、職員が上手に中に入りながら良い関係になるように努力している。	○	今後も、お仲間同士の関係が円滑に保てるように、何か問題があれば、早急に対応していくように努力していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一人退所の方がおられるが、同じ法人のディサービスを利用されている為声かけを行いながら、顔見知りの関係を継続する事と、状態に変化があれば、報告して頂いている。	○	グループホームにおいて、在宅復帰も頭におきながら、なかなか難しい問題もあるのが、現状ですが、在宅復帰となった場合は、ケアマネージャーやご家族と相談しながら、一番最良の在宅設定を考える事と、その後の状態も知っていかうと考えている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	この事は原則でケアの方向性として処遇方針にもあげている。	○	実現可能な範囲で、本人の思いや、意向に対しては、思いに寄り添ってあげたいと思っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しながら、入居前調査を始め、入居されてからも継続して、今までの生活歴を聞き、不足分を書き足すようにして把握に努めている。	○	今後も、関わりが、深くなるにつれての色々な情報を記録しながら、これまでの生活を少しでも多く把握出来るように努力していきたいと思っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のチェックリストを利用しながらご本人の持つ力の把握に努めている。	○	まだまだ、しなければいけない利用者さんの力の発揮が不十分であると思われる。時間をかけながら その方の持つ力が発揮出来るように援助、努力していければと思っている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝の、ミニカンファレンスや毎月の職員会議でケアの方向性の話し合いは出来ているが、ご家族の要望が十分出し切っておられるのかという事が疑問にあるのが現状である。	○	今後は、もっとご家族と話をする機会を増やすこと、そして職員全員がケアプランの立案に参加し、ケアの方向性を一貫したものにしていこう努力していきたいと思っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に対しての対応は出来ているのであるが、それを記録に残しているという事が不十分であると思われる。	○	ケアプランの遅れは反省すべき、今後の課題で、早急に状態に応じた対応に並行して、支援経過表を作成する予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を独自のものを使用し、気づきをあげられる個所を作っているが、なかなか記入が少ないのが現状である。	○	まだ開設間もないため、記録の内容の充実にはまだ時間がかかるであろうと思われるが、徐々に勉強会などを通してお年寄りの状態から考えられる事をあげられる様に学びを深めていきたいと思っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	まだ、開設間もないため、短期入所や、通所が利用できない為、グループホームとしての機能の範囲内で、最大限努力はしなければいけないと思っている。	○	将来的には、短期入所の受け入れや、通所サービスにも導入して在宅で頑張っておられる方、困っておられる方への支援の取り組みをする予定である。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんや、町内の方などには常に施設の状況を伝えながら、緊急時の応援を依頼させて頂いている。普段から、散歩の時など、挨拶しながら話をする機会を持たせて頂いている。	○	夜間の緊急時が一番不安を抱えている為、周囲の方に平日頃から協力を求めるとともに、今後も地域との関わりについては色々な方法を考えていこうと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を入居後も継続して頂いている。定期受診の介助を行っている。又緊急時においても家族や本人の希望を取り入れて同意書を頂いている。	○	今後もこの体制は持続し、あくまでも本人や家族の希望を取り入れていく。

ハーモニーグループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も症状の観察を行いながら、状態に応じて主治医と相談しながら適切な医療の対応をしようと思っている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>経営母体が医療法人の為、医療的な連携は比較的とりやすい状況である。往診時や常から相談しながら今後も連絡を密にとりようと思っている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も出来る限り本人や、家族の意見を尊重しながら可能な限りホームで医療が受けられる様な体制を考えていければと思っている。又入院治療が必要な場合は医療機関と密に連絡をとりながら早期退院に向けて協力しようと思っている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>あくまでも家族と本人の思いを尊重しながら、グループホームでの終末を選択していただけたなら、少しでも苦痛なくその人らしく、穏やかな最期を迎えられる様に援助していきたいと思っている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>可能な限り、その人らしい生活をぎりぎりまで、援助していきたい。そして緊急時や終末期に対しての準備をしながら、苦痛のない援助を考えて行こうと思っている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後も左記のような方針で考えていくつもりである。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重しながらプライバシーは保護する努力している。記録等の取扱いは慎重にしながら、ご家族の同意があれば開示の要求を受けるつもりである。	○	今後も個人情報の取り扱いや守秘義務を守ること、一人ひとりを尊重しながらプライバシーの保護に努めていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居のお年寄りに対しては、常に本人に意見を聞きながら、意思決定が出来ない場合は、本人にとって一番良い事を考えながら支援している。	○	あくまでも利用者本位という事を常に考慮しながら、意思決定が出来にくい人に対してもより良い方法を支援していこうと思っている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事以外は、その日その日でスケジュールを決める様にしている。外出もその日の状態に応じて対応させて頂いている。あくまでも、本人のペースで生活することを原則としている。	○	出来る限り、本人の希望を尊重していくのが、原則であるが、動きたがらない方に対しては、色々な方法を使って時々外出を進めたり、明らかに支援した方が良い生活を送っている方に対しては、少しずつ希望を聞きながら適切に支援する必要があると思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来る限り本人の希望に沿って対応させて頂いている。	○	今後もその人に合ったおしゃれをしていただきながら、もし出来なくなった場合は本人の趣味や好みを把握して支援していこうと思っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、後片付けなど、自主的にして頂けるように普段からの役割意識を大切にしている。その日によってレクリエーションが入り、食事の準備に参加出来ない事もある。現在食事作りに参加できる方が少なくなっているのも現状である。	○	ホールの中に台所があり、食事作りの経過や匂いなどが生活感を増していると思われる。そしてお年寄りから食事作りについて学べる機会も多い為、今後も一緒に関わっていければと思っている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、入居の方で、お酒を飲みたいという方は、おられず。基本的には本人の好きなものに対しては自由に取り入れて頂いている。煙草に関しては吸う人がおられず。	○	今後もご本人の嗜好に対しては、自由に取り入れていただいたり、配慮もしていこうと思っている。しかしたばこのみは、今後吸う方が入居されても管理させていただこうと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、各自の排尿パターンを把握しながらトイレ誘導している。	○	トイレの声かけの方法もプライドを傷つけないように、必ず人にわからない様な配慮をして行く事。失敗の多い方にもさりげなく交換し保清に留意すること、便秘傾向の人に対して、すぐ薬に頼らず水分や、運動、食事などでまず対策を考えていきたいと思っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴はいつでも対応するようにしている。現在は一日おきに入浴して頂いている。	○	時々温泉気分でのサービスの大きなお風呂を利用しながら、楽しんで入浴出来るような計画や、まだ温泉を利用した事がないので、今後計画していこうと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息と起きておられる時間のメリハリをつけながら、必要に応じて休んで頂いている。個人個人違うので休息の時間という設定はしていない。	○	昼夜逆転にならないように注意する事と、一日中寝て過ごすという事がないように注意しながら本人に合わせた休息を今後も配慮していこうと思っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が好きなおこと、出来る事を把握しながら、楽しみながら生活して頂けるように援助している。	○	今後も本人の趣味活動を積極的に進めていく事と、持っておられる力を発揮して頂けるように働きかけるように努力していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理が出来る方が1名であるが、以前経理の仕事をしておられ、自分の欲しいものを買って自分で支払いもされている。時々「お金がない」と言われる時がある為一緒に探しながら可能な限り自分で管理していただくと思っている。	○	唯一、財布を自分で持って買い物に行ける方に対しては、今後も見守り続けながらその力が少しでも継続して頂ける様に支援していこうと思っている。他の方にも買い物に行きながらレジで支払いをすることを一緒に今後も見ていただくと思っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	100%すぐ実現ではないが、可能な限り本人の希望を取り入れながら外出の機会を作る努力はしている。	○	今後も本人の希望を取り入れながら可能な範囲で、個別に対応させていただきたいと考えている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在、外出時車椅子が6台必要という状況から、全員での遠出の外出は難しいが、個別的な外出の機会を積極的に御家族にも働きかけたり、又希望があったら可能な範囲で支援したいと思っている。	○	ご家族との外出等はいつでもして頂けるように働きかけていく。ホームでも個別的にご本人の要望を可能な範囲で実現できるように今後も努力していこうと思っている。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話線を引いてあり、自由に電話を設置して頂けるようにしている。現在電話を引かれている人は1名である。外部からかかってくる電話はいつでも取り次いでいる。	○	通信に対しては今後も自由にして頂けるように支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会していただけるように、働きかけ、ご自分の居室でゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。	○	今後も左記と同様家族や馴染みの人が気楽に面会して頂けるようなホームの良い雰囲気作り、笑顔で対応出来るように職員が徹底出来る様に努力をしていく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	今後も身体拘束は行わない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、職員の目がない時に玄関から外へ行かれると大変危険な為ガード番というセンサーはつけさせて頂いている。	○	今後も出入りは自由にさせて頂き、鍵はかけない方針である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りをしながら夜間も消灯後23時、2時、4時の巡室と必要時には訪室するようにし、その都度記録に残しておく。	○	今後も常に見守りしながら夜間も巡室の励行と、事故防止に努力していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在の所、危険なものを置かれている人がなく、裁縫道具も必要な時は借りに来られている。ただ何でも危険になる時がある為、常に見守りながら、そのつど対応させて頂いている。	○	今後一番危険性の高い、刃物類やマッチ、ライターなどは、管理の必要性があると思われるが、マッチ、ライター以外は状態に応じて考えて行こうと思っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアル(緊急時のフローチャート・事故対応マニュアル・緊急時の症状別対応・夜間における緊急時対応等)を作成しているが、まだそれに対する勉強会が出来ていないので取り組まなければいけない。嚥下困難の方が一人おられるので、窒息時の対応がすみやかに出来る様に吸引機と掃除機が置いてある。	○	近いうちに、事故防止の為の取り組みについて勉強会を開催しようと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の中でも全員ではないが、救急処置法の講習を修了しているスタッフがいるが、徹底した全員研修が出来ていないので、近いうちに勉強会の開催をして行く必要あり。	○	平成20年度の施設内研修計画に早急に計画予定とする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	裏がすぐ川なので、台風時は常に危機感を持っている。23号台風時の教訓を活かして早めの対応を心がけている。運営推進会議において地域へ緊急時の協力を求めている。	○	緊急時の応援体制を職員全員が熟知出来る様に今後も徹底していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常から状態を密に家族に報告させて頂き、想定される事を知って頂けるようにしている。危険の予知は必要で、常に危険防止に努める事が必要であるが、制限のない様に心がけている。	○	認知症のお年寄りをお預かりしているという事でも、リスクが高い事を常に認識しながら、職員一人一人が危機感を自覚しながら、制約のない生活を援助できるように努めて行こうと思っている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインのチェックの実施。普段と違う状態であれば必ず看護職に報告することを実施している。報告を受けた看護職は速やかに判断し医師へ報告する。	○	今後も常に観察の目を持ちながら異常を早期発見し対応していけるように、介護職においても医療的な知識を深めていける様に研さんしていく。異常に気付いていながら、報告しない事がないように今後も徹底していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お年寄り一人ひとりのお薬のリストを作成している。新しく薬が追加されたり、臨時で薬が出た場合は必ず申し送り簿に記入している。	○	今後も職員全員が薬の理解を深める様に、医療職は指導していく事と確実に服薬出来る様に援助していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になってもすぐに下剤に頼らずに、水分補給や繊維の多い食品を提供したり運動不足も考えながら便秘に対する支援をしている。	○	今後も水分補給と食事の内容を考慮しながら便秘防止に努めていき、どうしても便秘の改善がない場合のみ医師の処方を受ける様にする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在、朝夕の2回口腔ケアの実施をしている。	○	現在朝夕の2回であるが、毎食後に口腔ケアをすることが、望ましいと思われる為昼食後はうがいでだけでも出来るように支援していく。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、極端に食べられない方はおられないが、嚥下困難の方がおられる為、その日の状態や、食品によって刻んだり、ミキサーにしたりしている。	○	今後も状態に応じて食べられる物を提供していき、体調が悪い日などは、状態に合わせた食事を提供していけるようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前や排泄後、外出後の手洗いの励行。手拭きはペーパータオルを使用。インフルエンザに対しては予防注射の実施。	○	感染予防の基本は手洗い、うがいを理解し、今後も予防に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の買い物により、必要以上の買い置きをしない。残り物を残さず処分していく事を職員に徹底している。布巾類は毎日ハイター消毒後専用の洗濯機で洗濯している。台所は清潔第一を心掛けている。	○	今後も衛生第一で、食事担当者の手洗いと下痢気味の際は食事担当を交代すること。左記の内容は今後も継続して行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫と言われると特に何もしていないが、常に開放的に入りやすい玄関ではある。	○	これから玄関にもお年寄りたちの作品などを飾りながら、地域の人にも見て頂けるようにしていこうという企画は思案中である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に、緑や花を飾るようにし、玄関には四季折々の舞鶴の写真をボランティアさんに飾って頂いている。	○	今後も左記の事を継続しながら、居心地の良い場所作りに努力していきたいと思っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や、テレビ前のソファなど椅子は所どころに置いてあるが、今のホールの許容量で工夫を考えていかなければいけないのが今後の課題である。	○	今後の課題としてホールの中での居心地の良い場所作りを職員で話し合っていて考えていきたいと思っている。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、今までご自分で使っておられた家具類を持ってきていただいている。	○	今後も本人の意向に沿って部屋の模様替えなどを考えて行こうと思っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇は常につけておくことや、悪臭のないようには常に配慮している。冷暖房で暑すぎず、寒すぎずその時に応じて調節している。悪臭のものはすぐに掃除することとしている。	○	今後も常に気配りしながら清潔感のあるホームを維持していきたいと思っている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等の設置。浴槽のすべ止めなど、思い当たる所は安全面に留意している。	○	今後も状況を見ながら必要だと思われる事は対応していきたいと思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に見守り、わからない部分への手助けをすることで混乱や不安は軽減していると思われる。手を出しすぎず、さりげない援助を心がけている。	○	その人と関わり、知っていく事の必要性を職員全員に認識して頂き、自立支援へ向けた援助方法を常に考えていきたいと思っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に花や、畑をする予定が遅れている為、ボランティアさんに協力して頂きながら入居者が楽しめる庭作りをしていると思っている。	○	ホーム周囲に四季折々の植樹、花、畑を手作りをする予定。出来る限り早期に取り掛かりたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ハーモニーグループホーム

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普段の生活の中に常に歌声や、音楽、楽器演奏を取り入れながら音楽療法に取り組んでいる。今年の敬老会では、入居のお年寄り達にトーンチャイムの演奏をして頂き「もみじ」「ふるさと」の二曲を演奏することが出来た。今後も行事のたびに演奏を行いたいと思っている。